オーディオ実験室収載

LINN LP-12 の再構成(30)
－TELEFUNKEM L61 での試聴－

１． 始めに

前報(29)のスピーカーEMI DLS529 に替えて TELEFUNKE L61 での LINN LP-12 の軸受けを新規のカルーセルキットに交換することを受けてその効果を確認しました。

２．LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

改造の実施内容は、前報(23)で述べたとおりです。

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス／バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力します。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス／バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→IPC AM1029→TELEFUNKEN L61

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

最後に聴いたのは、IPC AM1029 がサブシステムの再構成(1)、TELEFUNKEN L61 がサブシステムの再構成(6)で報告しています。従って、IPC AM1029 と TELEFUNKEN L61 の組み合わせではありません。その後は前報(24)記載の新規フォノイコライザーの導入以降のような改造を行っています。

使用した盤は、前報(24)でも使用した次のものです。

Deutsche Grammophon　483-6927/6928/6929
J.S.Bach　Sonatas & Partitas
Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551
三つのピアノソナタ（選帝侯のソナタ）
ゲザ・アンダ（ピアノ）

LONDON KLJC-9180/9184（RTI／キングレコード）

リヒヤルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲
ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル
CBS SONY 25AG 407
津軽三味線
高橋竹山
Riverside Rlp9407
Bags meets Wes

3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

Deutsche Grammophon483-6927/6928/6929 の Bach の Sonatas & Partitas は、シングルアンプの IPC AM1029 と TELEFUNKEN L61 の組み合わせの良い面がでたという感じで、Nathan Milstein の微妙なボウイングのニュアンスを引き出しています。

ドイツグラモフォン MG9551 の選帝侯のソナタは、スケール感を出すには無理がある組み合わせですが、意外にまとまったバランスの良い美音を奏でてくれます。

LONDON KLJC-9180/9184 のワルキューレは、ビーム管のシングルアンプの IPC AM1029 はゲインが小さく、緻密な音はするものの、この曲のスケール感を出すには苦しいところがあります。

CBS SONY 25AG 407 の高橋竹山は、意外に立ち上がりの鋭い音も出ますし、太棹らしさも表現してくれます。

Riverside Rlp9407 の Bags meets Wes は、ベースの音階の再現までは無理ですが、こじんまりとしてはいるものの意外にスイング感も出してくれています。

４．まとめ

新規フォノイコライザーの導入からカルーセルキットへの更新の効果を TELEFUNKEN L61 で確認しました。

以上